

Edu α 指導用アニメーション



あさがおが育つようす (タイムラプス映像)



あさがおの生育過程を振り返り、生育過程における行動や環境要因についてプログラミングと見立ててマグネットを貼って可視化する。



あさがおの生育過程を振り返り、プログラミング的思考の育成に繋げるアンブラド教材



※ボードは別売りです。



埼玉大学 教育学部 教授 教育研究評議員

山本 利一 (やまもと・としかず)

1961 年生まれ。福井大学大学院教育学研究科修了，
兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 2005 年 3 月 (博士 (学校教育学))，
1984 年～公立中学校教諭，1994 年～福井県教育研究所 指導主事，
2001 年～埼玉大学教育学部助教授，2005 年～現職。

研究領域は、技術教育，情報教育，教師教育
<http://tyamamot.tech.edu.saitama-u.ac.jp/>



「未来を切り拓く子供達のために ～科学技術理解のための教材の開発～」

2020 年度から小学校において、プログラミング教育が必修化されたことは周知のことです。子どもたちに、「順序を考え、試行錯誤し、ものごとを解決する力を養う」これらの学習経験が、論理的な思考に繋がっていくことを目指しています。小学校中・高学年は、パソコンを使ったり、ロボットを使って様々な実践がなされています。しかし、小学校第 1・2 学年の児童にとっては、より直感的で体験的な指導が効果的です。そこで、本教材「あさがおのせいちょうのじゅんばん」は、児童があさがおを育てて経験を振り返り、あさがおの成長過程を示したマグネットカード (芽・双葉・本葉 (2 種類)・蕾 (2 種類)・花 (2 種類)・実 (2 種類)・種・根 (3 種類) を順番を考慮して貼り合わせて行くものです。その成長過程に、児童が行った活動 (肥料・水・太陽・土・支柱，温度，観察，病気，葉をまく，うるなど) を組み入れていく学習をプログラミングとして位置づけ、アンブラドでプログラミング教育をすることで効果が期待できます。